



ウェールズ & 日本
Cymru a Japan
Wales and Japan

ニュースリリース

2025 年 1 月 9 日

ウェールズ政府日本代表事務所

両国の関係強化を目指す取り組み「Wales and Japan 2025」が開幕

- ・ 1 月 9 日（木）駐日英国大使館で「Wales and Japan 2025」プレスローンチイベントを開催
- ・ 国際外務本部局副局長フィオン トーマスが来日し「Wales and Japan 2025」の概要説明
- ・ 両国間のビジネスと文化における関係強化を目指し 2025 年開催のイベントや活動を発表
- ・ 2025 年大阪・関西万博へのウェールズの参加決定



ウェールズ政府は、2025 年を「Wales and Japan 2025」キャンペーン年と称し、さまざまな企画を通して堅固な関係を築き上げてきた日本との持続可能な絆をさらに強化してまいります。また「Wales and Japan 2025」キャンペーン計画の一環でウェールズ政府は、2025 年大阪・関西万博へのウェールズの参加を表明します。4 月 29 日（火・祝）および 6 月 24 日（火）には英国パビリオンでウェールズデーが開催される予定です。そのほかにも「Wales and Japan 2025」と称したこの一年は、日本各地での文化活動やスポーツ活動のプログラムを通じて、日本とウェールズとの友好関係を示す取り組みを展開していきます。

4 月～10 月 2025 年大阪万博でのウェールズデー開催

ウェールズは、2025 年大阪・関西万博の英国パビリオンの公式パートナーとなりました。このパートナーシップを通じて、ウェールズは英国パビリオンでイベントを主催します。英国のナショナルデーにウェールズからパフォーマーを派遣したり、ウェールズやウェールズが提供するビジネスの機会についての専門家による講演を予定しています。ウェールズデーは、万博期間中に 2 日間、開催されます。

最初のウェールズデーは 4 月 29 日（火・祝）に開催され、ウェールズを祝う日となります。このイベントでは、文化、芸術、パフォーマンス、食品と飲料、クリエイティブ、観光、スポーツ、教育などの分野で、ウェールズが誇る素晴らしいモノ、コトを紹介いたします。またこの日は、ウェールズの「未来世代のための Well-being 法」の 10 周年に当たり、一般の人々がウェールズが唯一無二である理由について知ることができる機会となっています。

ウェールズデー2 日目の 6 月 24 日（火）は、英国企業が来日し健康にフォーカスする日となります。ウェールズは英国パビリオンにて、健康イノベーションおよび健康、幸福、芸術に関するイベントを二つ主催します。

2025 年大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の下で、ウェールズは持続可能な開発、革新的で創造的な経済、文化遺産への取り組みをプロモーションします。

6 月に東京で Investor's Showcase を開催

ウェールズ政府は 6 月に東京で特別イベントとして Investor's Showcase を主催します。このイベントは、ウェールズが日本企業に提供する投資機会を紹介しつつ、ハイテクイノベーションの指標としてのウェールズをアピールすることを目的としています。

この Investor's Showcase では、グリーンエネルギー、メドテック、サイバー、化合物半導体など、ウェールズが特に強みとする主要な部門における投資機会に焦点を当てており、日本のパートナー企業は、自社の技術やノウハウによって、ウェールズの将来の経済発展にどのように貢献できるかを発表する予定です。また、ウェールズ政府は、昨年 12 月に東京で開催された SDGs Week/Eco Pro に海外機関として初めて出展、同時に、会場内ステージでセミナーとシンポジウムを開催致しました。世界で初めて SDGs を法制化した国家として、「**未来世代のための Well-being 法**」の概要を日本の主要機関や大学から招聘されたパネリストやモデレーターと共に、国連の持続可能な開発目標に対するウェールズの取り組みをアピールすることで、ウェールズの将来に対する、投資家からの信頼を獲得していきます。このようにウェールズは、持続可能性の分野における世界的リーダーであり、未来世代コミッショナーという役職を任命した最初の国でもあります。

10 月にウェールズで投資サミットを開催

またローンチイベントでは、ウェールズの**エルネッド・モーガン首席大臣**が 10 月にウェールズで**投資サミット**を主催し、日本をはじめとする世界各国から来賓を迎える予定であることも発表します。

本日公開される動画では、首席大臣からの次のようなメッセージを発信しています。

「2025 年、日本とウェールズは、お互いに深く根付いた絆を祝福します。このパートナーシップは何世紀もかけて築かれたもので未来にわたって発展し続けることでしょう」

「両国が共有する歴史は 19 世紀にまでさかのぼります。当時のウェールズでの技術革新が、日本の交通網の形成に重要な役割を果たしました。南ウェールズのダウライズ製鉄所の鉄鋼や鉄は、日本初の鉄道網の建設に貢献し、長きにわたるパートナー関係の基礎が築かれました」

「そのパートナー関係は、今日、新たな、意義深い形で発展しています。ウェールズの温室効果ガス排出量ネットゼロの未来を目指す道のりを支援する最前線に立っているのは日本の企業です。6月に東京で開催される Investor's Showcase へのご参加をお待ちしております。また、10月にウェールズで開催される投資サミットでお会いするのを楽しみにしております。それでは、Diolch yn fawr/ディオッフ・アン・ヴァウル（どうもありがとうございました）」

ウェールズのドラゴンをモチーフにした特別な駅スタンプ

ローンチイベントでは、日本とウェールズのさまざまなつながりを描いた、「Draig Goch（ウェールズのドラゴン）」をモチーフにした特別な**駅スタンプ**のお披露目も予定しています。イラストを手がけたのは、著名なウェールズ人イラストレーターのジョナサン・エドワーズ氏です。同氏は以前にも、大阪、東京、奈良で展覧会を開催しているほか、2021年春夏コレクションのプロモーションのため、阪急百貨店のショーウィンドウのアートワーク制作も行いました。



ウェールズと日本のビジネス上のつながり

日本からウェールズへの投資は深く根付いており、ソニー、シャープ、トヨタ自動車（ハイブリッドエンジンを生産するトヨタ初の海外工場）、パナソニック、GS ユアサ、大和ハウス工業、カルビーなどの有名企業が Draig Goch の名の下に事業を展開しています。ウェールズではすでに 55 社もの日本企業が進出しており、約 6800 人の雇用を生み出しています。ウェールズの首都カーディフでは、日本人社員の子供たちのために毎週土曜日、日本人学校が開かれています。

ソニーの最初の工場は 1973 年に南ウェールズに開設され、ウェールズ最大の雇用企業の一つとなりました。二つ目の工場は現在、英国に残る唯一のソニーの製造工場であり、カメラ、放送機器、有名な Raspberry Pi 回路基板をこれまでに 5000 万個以上生産しています。チャールズ国王は皇太子時代、ソニーをウェールズに誘致する上で重要な役割を果たしていました。工場にも頻繁に訪れており、今年の 7 月に**ソニーUK テクノロジーセンター**を訪問した際には「私の工場」と呼んでいたほどでした。1970 年、チャールズ皇太子（当時）は大阪万博のレセプションでソニーの共同創設者である盛田昭夫氏と面会し、「ヨーロッパに工場を開設する予定があるなら、ぜひ私の国ウェールズに開設してください」とおっしゃいました。そして、ソニーは実際に 1974 年にウェールズのブリジェンドにトリニトンカラーテレビの製造拠点を開設しました。

ウェールズへの投資 50 周年を祝うもう一つの日本企業は**パナソニック**です。12 月、駐英日本大使の鈴木浩氏は、ウェールズの首都カーディフにおいて稼働する同社の最新の 2000 万ポンド規模のグリーンエネルギープロジェクトを発表しました。これは、地元で生産されたグリーン水素を使用し、パナソニックの工場全体を 100%再生可能エネルギーで稼働させるという、日本国外で初めての試みです。ウェールズのエルネッド・モーガン首席大臣は次のように述べました。

「パナソニックの決定は、次世代のために未来を守ることに尽力し、世界的に責任ある国家としてのウェールズを目指す私たちのビジョンと一致しています」

住友精密工業（SPP）は、MEMS（Micro Electro Mechanical Systems：微小電気機械システム）の著しい成長を可能にした革新的技術、DRIE（Deep Reactive Ion Etching：深堀り加工装置）の開発と商業化において、ウェールズにある子会社の Surface Technology Systems（STS）を統括している。この技術により、自動車分野ではエアバッグ用加速度センサー、安定化用ジャイロセンサー、次いでスマートフォン、IoT（モノのインターネット）の出現が可能になった。**住友精密工業株式会社** 元代表取締役社長の**神永晋氏**は、この分野での貢献が認められ、2024 年 IEEE 「Robert Bosch・マイクロ&ナノ電気機械システム賞」を受賞しました。

アニメやラグビーをはじめとした文化的つながり

「Wales and Japan 2025」では、両国間の協力の精神を祝う数多くの文化、スポーツ、人と人との交流のイベントや活動も予定されています。

2019 年、**北ウェールズのコンウィ城**と、白鷺城の愛称で知られる兵庫県の**姫路城**という二つのユネスコ世界遺産が初めて姉妹都市提携を結びました。これはウェールズと日本にとって記念すべき関係の始まりであり、両地域に共通するさまざまなものを祝う機会となりました。今年は記念イベントが開催される予定です。

日本の伝説的なアニメーターであり、**スタジオジブリ**の創設者の一人である宮崎駿氏は、同スタジオの 1 作目『天空の城ラピュタ』の製作中、南ウェールズの渓谷に作品のインスピレーションを求めました。ウェールズを 2 度訪れた宮崎監督は、映画の中の多くの風景をウェールズの**鉱山の町**をもとに描いたといわれております。

ウェールズと日本は、森林の持つ美しさとその精神的、生物多様性に富んだ風土への愛を共有しています。これを体現しているのは、有名なウェールズ人である **C.W.ニコル氏**です。素晴らしい生涯を送ったニコル氏は、日本国籍を取得。ウェールズのルーツを生かして、石炭の採掘とその後の廃坑のために荒れ果てていた森、アファン・アルゴードが人々の運動により見事に森林公園として蘇った歴史に習い、荒れていた長野県黒姫の里山を世生き返らせ日本森林保護に人生を捧げました。故郷の森にちなんで長野県黒姫の森を「アファンの森」と名づけウ

ェールズの森と姉妹森となりました。今もニコル氏の遺志を継いだ「アフアンの森財団」が長野県黒姫にて積極的な SDGs に繋がる活動を継続しております。

また、海藻は日本の食生活の定番として知られていますが、ウェールズでも伝統食として愛されてきました。英国の生物学者キャサリン・ドリュウ・ベイカー女史は、北ウェールズの海岸で孢子から海苔を養殖する実証実験で成果をあげました。その後、熊本県海苔漁業組合の協力により有明海で実証実験に成功。そのお陰で日本で初めて海苔養殖が始まり市場が安定したという史実があります。ドリュウ・ベイカー教授の、日本の漁業と海苔事業への貢献により、日本では「**海苔養殖の母**」と呼ばれています。ドリュウ教授の命日 4 月 14 日には今も敬意を表し、毎年「ドリュウ祭り」として有明海を臨む住吉神社で厳かな式典が執り行われています。

日本とウェールズが情熱を注ぐもう一つの共通点はラグビーです。2025 年の夏にはウェールズ男子代表チームが**日本代表チーム（ブレイブ・ブロッサムズ）とテストマッチ**を行う予定です。2019 年にラグビーワールドカップを日本に招致した際の立役者であった徳増浩司氏がラグビーにほれ込んだのは、まさに 1975 年に行われた両国間の試合中でした。

また、ラグビーに関連したさらなるつながりとして忘れてはならないのが、ウェールズ史上最高の選手の一人である**シェーン・ウィリアムズ氏（大英帝国勲章 MBE）**です。ウィリアムズ選手は、スウォンジーを拠点とするオスプリーズで人生の大半をプレーした後、日本のクラブチームである三菱重工相模原ダイナボアーズに移籍し、そこでキャリアを終えることを選びました。

「Wales and Japan 2025」の予定

今年予定されている祝賀行事の一部をご紹介します。

1 月 9 日「Wales and Japan 2025」プレスローンチイベント

「Wales and Japan2025」のローンチを記念して、2025 年 1 月 9 日（木）にプロジェクトの概要や今後の予定をご説明するプレスローンチイベントを駐日英国大使館にて開催。以前に

ウェールズで**ソニーUK テクノロジーセンター**の投資管理、生産管理、調達を担当していた、**ソニー株式会社** 取締役 **紅林正己氏**と、**住友精密工業株式会社** 元代表取締役社長の**神永晋氏**をゲストにお招きしております。両社ともに、ウェールズでは50年の事業実績があります。**住友精密工業株式会社** 元代表取締役社長の**神永晋氏**は、1990年代に4年以上にわたってSPPのウェールズ現地子会社を経営していらっしゃいました。なおプレスローンチイベント終了後には、「Wales and Japan 2025」キャンペーンの幕開けとして、ウェールズ政府本部より国際外務本部局副局長フィオン・トーマスを迎え、駐日英国大使ジュリア・ロングボトムとの共催でレセプションを実施。

1月13日ー17日日 ウェールズスタートアップ企業・大学・自治体の代表者による北九州市訪問

2019年のラグビーワールドカップの期間中、北九州市はウェールズにとって「第二の故郷」となり、ウェールズ代表の応援で市全体が熱く盛り上がりました（小倉城はチームカラーのライトアップで文字通り真っ赤に！）。それ以来、日本とウェールズの小中学校が姉妹校となったり、北九州でコーチや審判の育成が行われたりと、両国の関係は発展してきました。そして、このラグビーを介した特別な関係は、経済交流推進に向けた新しい関係も築き上げました。ウェールズと北九州のスタートアップ交流は今年で4年目を迎えます。「Wales and Japan 2025」の最初のプログラムとして、JETRO 北九州がウェールズのスタートアップを招聘、北九州市の地元企業との交流を図るピッチイベント等が予定されています。

2019年日本で開催されたラグビーワールドカップでは、北九州市はウェールズ代表チーム（レッドドラゴンズ）の事前トレーニングキャンプ地選ばれ、開催前から、赤いTシャツの大勢の市民、ウェールズの国旗や応援バナーが市全体を覆いつくし、小倉城の真っ赤なライトアップ等、市全体が熱く盛り上がりました。レッドドラゴンズの公開公式練習ではミクニワールドスタジアムに満杯の15000人のサポーターで真っ赤に埋め尽くされ、観客全員がウェールズ語で応援歌と国歌を斉唱。この時に北九州市はウェールズにとって「第二の故郷」になりました。

このキャンプ実施を契機に構築された友好関係を多分野へレガシーとして持続・発展させていくことを目的に、ウェールズラグビー協会（WRU）と北九州市は 2020 年 2 月 22 日に国際友好協定の覚書を締結。両国の小中学校の姉妹校交流や、大学の連携、ラグビーコーチや審判の育成などソフトパワーの関係が発展しております。

さらに、このラグビーを介した特別な関係は、経済交流推進に向けた新しい関係も築き上げました。ウェールズと北九州のスタートアップ交流は今年で 4 年目を迎えます。

「Wales and Japan 2025」の最初のプログラムとして、JETRO 北九州がウェールズのスタートアップを招聘、北九州市の地元企業との交流を図るピッチイベント等が 1 月 16 日に開催されます。

2 月 19 日～21 日 WIND EXPO（風力発電展）への出展@東京

ウェールズのエネルギー・環境セクターは 5 万 8000 人以上の従業員を雇用し、48 億ポンド以上の収益を生み出しています。このセクターの強みは、エネルギーおよび廃棄物管理、水処理、環境監視、建築環境にあります。このダイナミックなセクターでは、海洋エネルギーへの取り組みや低炭素プロジェクトの分野で急速な革新が進んでいます。同様に公益事業会社は持続可能なエネルギー源に投資しており、ウェールズの深海港には再生可能プロジェクトを支援する設備が整っています。特に今注目を浴びているのは、2025 年から本格的に始動する、ウェールズ初の浮体式洋上風力発電プロジェクトです。このプロジェクトはケルト海沖で 4.5GW の規模で開発が進み、日系企業にも多くの投資機会を提供します。多くの製品とサービスが、ヨーロッパ、中東、北米、極東の市場など世界中に出荷され、持続可能な開発と、より環境に優しくクリーンな未来の構築に貢献しています。ウェールズから WIND EXPO の会期中に洋上風力発電のサプライチェーン企業が来日する予定です。又、今年初、日本とウェールズの浮体式洋上風力での協力関係を構築する目的で設立された、有志活動団体 Japan - Cymru Floating Forum（ジャパン・カムリフローティングフォーラム）の初会合を都内で開催します。会社・組織の垣根を超えた、浮体式洋上風力普及に熱意をもつ個人の集まりとなります。

ウェールズから WIND EXPO の会期中に洋上風力発電のサプライチェーン企業が来日する予定です。又、今年初、日本とウェールズの浮体式洋上風力での協力関係を構築する目的で設立された、有志活動団体 Japan - Cymru Floating Forum（ジャパン - カムリ フローティング フォーラム）の初会合を都内で開催します。会社・組織の垣根を超えた、浮体式洋上風力普及に熱意をもつ個人の集まりとなります。

2 月 28 日 セント・デイヴィズ・デイのレセプション@東京

3 月 1 日は、St.David's Day（セント・デイヴィズ・デイ）。国をあげてウェールズの守護聖人を祝福する日です。有名な指針となる言葉は"gwnewch y pethau bychain" — 「小さな良い行いをしよう」 — 世界中の皆様とともに祝福します。2 月 28 日、ウェールズ政府は英国大使館英国大使公邸で祝賀レセプションを開催します。創造性はウェールズの生活の中心であり、レセプションを共に祝うために、包括的で友好的なウェールズの青少年国際団体である Urdd（アウルズ）から青少年のシンガー達がこの機会に来日、歌を通してメッセージを伝えます。彼らが所属する Urdd Gobaith Cymru（アウルズ・ゴバイス・カムリ）は、ヨーロッパ最大の青少年団体であり、8 歳から 25 歳までの 55000 人を超える会員を擁します。1922 年に確立されたその精神は今日でも変わらず強くシンプルで、「コミュニティに還元する機会を十分に楽しみながら実現すること」です。

3 月 2 日 日本ウェールズ協会主催のセント・デイヴィズ・デイのディナー@東京

Urdd Gobaith Cymru（アウルズ・ゴバイス・カムリ）の青少年シンガーは、3 月 2 日（日）に FCCJ（日本外国特派員協会）で開催されるセント・デイヴィズ・デイ祝賀晩餐会（日本ウェールズ協会主催）でも、歌の国ウェールズを代表してパフォーマンスを披露致します。当レセプションでは、Urdd Gobaith Cymru に加え、「マビノギオン (Mabinogion)/中世のウェールズ語写本より収集した神話・伝承」の紹介も企画されております。

St. David's Society（日本ウェールズ協会）：

「日本においてウェールズの伝統、歴史、芸術、ウェールズ人のアイデンティティを推進する日本在住のウェールズ人とウェールズの友人、支援者のための非営利団体。東京に拠点を置いており日本とウェールズの文化芸術交流を促進、ウェールズに興味のあるメンバーを広く募集しております。」

3月11日～14日 FOODEX Japan 2025 展示会への出展 @東京

広大な海岸線と温暖な気候、肥沃（ひよく）な土地のおかげで、ウェールズの食品・飲料は新鮮でミネラルを多く含みます。伝統と革新が融合し、世界をリードするブランド、何世代にもわたり伝統を受け継ぐ生産者、食品・飲料ビジネスの起業家達が出展し、ウェールズの味の魅力を最大限にご紹介致します。

4月14日～21日 Tongwynlais Temperance Band のツアー

カーディフに本校をおく語学学校ケルティック・イングリッシュ・アカデミーのCEO、シヨーク・ドハティ氏は、歴史的な炭鉱都市である九州の大牟田市出身で、祖父と叔父は炭鉱で働いていました。大牟田市には日本初の炭鉱である三池炭鉱があり、2015年にユネスコ世界文化遺産に登録されています。同鉱山が開業する以前の1898年、開拓者であった團琢磨氏はウェールズのブレナヴォンを訪れ、世界最先端の鉱山技術を学び、日本に持ち帰りました。

日本とウェールズの両方で教育を受けたドハティ氏は、音楽、伝統、文化に対して深い情熱を持っています。彼女は、両国の絆を強化し、ウェールズを世界的な観光地としてプロモーションすることに尽力しています。映画「ブラス！（Brassed Off）」を見てブラスバンドの伝統に感銘を受けた彼女は、ウェールズに移り、王立ウェールズ音楽演劇大学で管楽器のユーフォニウムを学びました。在学中、彼女は Cory Band、Parc & Dare などの有名なブラスバンドに参加し、現在も Tongwynlais Temperance Band で演奏しています。

4月 未来世代のための Well-being 法円卓会議（ラウンドテーブル）の開催

持続可能なイノベーションに対するウェールズの取り組みは、「未来世代のための Well-being 法」を通じて示されています。この法律は、世界的な環境政策に影響を与え、日本の 2025 年大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」とも共鳴する先駆的な法律です。2025 年 4 月に法制定 10 周年の節目を迎える「未来世代のための Well-being 法」は、日本の未来志向社会のビジョンと結びつき、国際社会における持続可能性の取り組みをインスパイア致します。

4 月～10 月 2025 年大阪・関西万博でのウェールズデー開催

詳細は上述をご覧ください。

6 月 Investor's Showcase@東京

詳細は上述をご覧ください。